

令和2年4月1日

令和2年度 稲荷教育

京都市立稲荷小学校
校長 吉山 茂樹

令和2年度 京都市学校教育の重点

＜京都市の目指す子ども像＞

「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を創造する子ども」

- ◆広い視野と豊かな感性をもち、よりよい人生や社会を創造できる
- ◆学校教育をはじめ様々な学びを生かし、社会的・職業的自立を果たすことができる
- ◆多様な他者と共に生き、学び合い、人権文化の担い手となることできる

＜学校運営の柱＞ ～全教職員で進める確かな学校教育～

- ①子どもの命を守りきる
- ②カリキュラム・マネジメントの視点をもって実践を進める
- ③職責を自覚し、常に自己研鑽に努め、教育の質の向上を図る
- ④校種間連携・接続を推進する
- ⑤「困り」を抱える子ども一人一人に対する支援を行う
- ⑥「社会に開かれた教育課程」の下、保護者・地域と連携・協働した取組を推進する
- ⑦関係機関など社会と連携した総合的・継続的な支援を展開する

＜令和2年度 重視する視点＞ ～「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」～

- 主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善
- 家庭での自学自習の習慣化
- 生徒指導の三機能を生かした教育活動の推進
- 自己肯定感や自己有用感等の自尊感情を十分に持つ中で他者の良さを見つける
- 体力面の向上を目指す

本校が目指す教育

I 学校教育目標

いきいき なかよく りそうに向かって 考動する子

II めざす子ども像

い
な
り

- 「いきいき」 ○いきいき主体的に学習できる子
- 「なかよく」 ○友だちと仲良く、命ときまりを守りきる子
- 「りそうに向かって」 ○目標に向かって、心や体を鍛える子
- 「いなり」 ○学校・地域を愛する子
- ◎「考動する」…「考えて行動する」（自己指導能力）

Ⅲ 学校教育目標の具現化

